

今月は、産婦人科と、整形外科の人工股関節置換術について、それぞれご紹介させていただきます。
対象となる患者さまがおられましたら是非ご紹介をお願いいたします。

当院での婦人科治療について



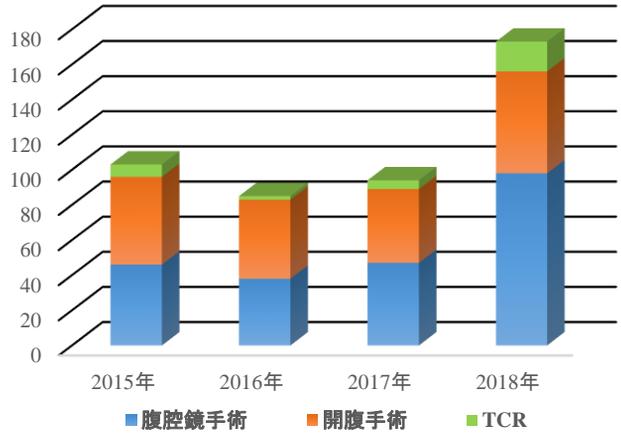
産婦人科 医長
芦原 敬允

婦人科疾患において、子宮筋腫や卵巣良性腫瘍の手術だけでなく、一部の悪性腫瘍においても縮小手術である腹腔鏡下手術の適応となってきています。当院におきましても、良性疾患だけでなく、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍も手術が可能となっております。また、粘膜下筋腫や筋腫分娩などには入院期間の短い、低侵襲な子宮鏡下手術で、一方、卵巣悪性腫瘍には開腹手術によるcomplete surgeryを目指す根治術を、それぞれ積極的に行っております。

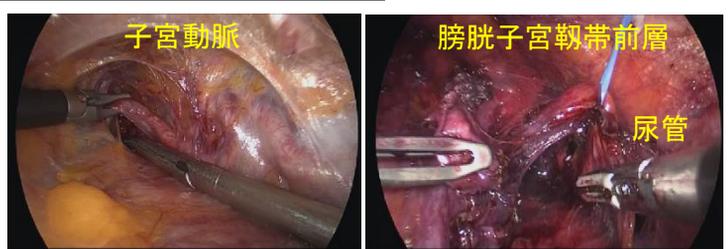
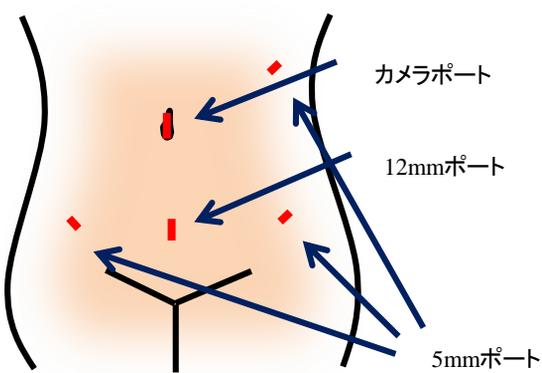
右図のように、婦人科手術については子宮鏡下（TCR）、腹腔鏡下、開腹悪性手術それぞれが、連携登録医の先生方に支えられ増加しております。

若輩者ですが、婦人科腫瘍専門医のほか、子宮鏡下および腹腔鏡下認定医を取得しております。また、大阪医科大学 婦人科・腫瘍科講師の田中智人先生にも来ていただき、手術加療を行っています。

今後も、患者さまのニーズに応えられるよう集学的治療にあたっていきます。婦人科疾患での治療が必要な患者さまがおられましたら、ぜひご紹介いただけたらと思います。



腹腔鏡下子宮体がん手術について



腹腔鏡下子宮体がん手術におきましては、左図のようなポート位置で手術を行っております。

上図のように子宮動脈の同定を行い、結紮と切除、また、尿管の剥離を充分に行うことで、安全に腹腔鏡下子宮体がん手術を行っております。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)について

MRI

PET-CT

GENETIC RESULT: POSITIVE - CLINICALLY SIGNIFICANT MUTATION IDENTIFIED

Note: "CLINICALLY SIGNIFICANT," as defined in this report, is a genetic change that is associated with the potential to alter medical intervention.

GENE	MUTATION	INTERPRETATION
BRCA1	c.2899C>T (p.Gln934*) Heterozygous	DELETTERIOUS

HBOCは、BRCA1/2の変異に起因する乳がんおよび卵巣がんをはじめとするがんの易罹患性症候群です。常染色体優性遺伝を示し、卵巣がんの10-15%を占めると報告されています。

当院におきましても、他科とも連携を取りつつ、遺伝子検査、手術加療、術後療法およびサーベイランスを行っております。同様に、家族歴から疑わしい患者さまがおられましたら、ぜひご紹介ください。

人工股関節置換術



整形外科
主任部長
若林 元

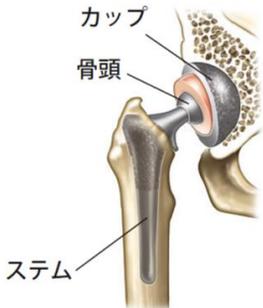
下肢の関節に障害を生じると、立つ・歩くといった機能が低下し、日常生活動作の大幅な低下を招きます。人体最大の関節である股関節に障害を生じる疾患には、変形性股関節症、大腿骨頭壊死、関節リウマチ、急速破壊型股関節症などが挙げられますが、短期間に歩行機能の低下を招き、それが生命予後に影響することも稀ではありません。

破壊された股関節を人工関節に置換することにより、歩行機能や日常生活動作を改善させることができます。人工股関節置換術の手術件数は年々増加しており、当院でも同傾向にあります。

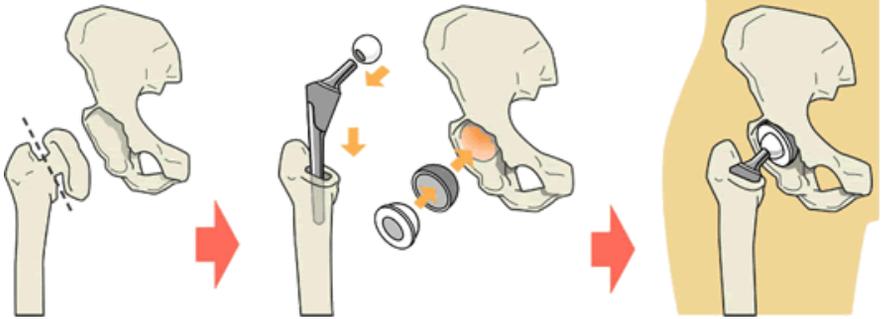
当院における人工股関節置換術件数

年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
件数	24	37	38	43	35	37	40

股関節は、球形の大腿骨頭が臼蓋(寛骨臼)にはまり込んだ、ボール&カップ形状の関節です。人工股関節ではボールとカップをそれぞれ人工物に置換します。変形した大腿骨頭は切除し、金属製のステムを打ち込み、その先にセラミック製の骨頭を装着します。臼蓋側は球形のリーマーで切削した上で、半球形の金属のカップを打ち込んで固定し、さらに摺動のためのライナー(ポリエチレンもしくはセラミック)が組み合わされます。



人工股関節模式図



人工股関節置換術 手順



人工股関節置換後X-p

各コンポーネントは原則的には骨に強固に固定されており、股関節周囲の筋肉や靭帯等の組織も極力温存されているため、術後早期からの歩行訓練が可能です。術翌日か翌々日には離床を開始し、3週間程度の入院で杖歩行～独歩が可能となることが多くなっています。

周辺の回復期病院と連携することで、長期のリハビリテーションを要する患者さまの手術も行うことができるようになっていきます。

当院での手術においては、人工膝関節置換術と同様にナビゲーションを用いた手術を取り入れるようにしています。特にカップ側は、設置位置やアライメントが術後脱臼の率に関係してくることもあり、術前計画通りにコンポーネントを設置できることは強みとなっています。

また、症例によっては股関節前外側を切開し筋間から股関節に進入する手術を行うことにより、より早期の回復が可能となり、脱臼抵抗性の改善に伴って術後の活動制限が不要となっています。

股関節痛や股関節機能障害が改善せず、困っておられる患者さまは手術の適応があるかもしれません。当院へのご紹介をお願いいたします。

※人工骨頭置換術は、人工股関節置換術と手術方法や術後レントゲンが類似していますが、高齢者の大腿骨頸部骨折に対する術式となっています。